

平成17年4月26日

新宿区長 殿

特定非営利活動法人 国境なき子どもたち
新宿区若松町33-6 菱和パレス若松町11階
カイ ミチユキ
甲斐 道幸 印

事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記のとおり報告します。

記

特定非営利活動法人国境なき子どもたち

1 助成対象事業

事業名	青少年のための教育プロジェクト～共に成長するために～ （「友情のレポーター」記録ビデオ配布および帰国報告会の開催）
実施日時又は期間	7月24日～8月2日：ラオスでの現地取材、ビデオ撮影 9月12日：ビデオレポート制作完了 11月：ビデオ配布開始 2005年4月2日（土）帰国報告会の開催
対象者の範囲及び人数	新宿区内の小・中・高校生、養護学校生、一般の方々 全国の小・中・高校生、一般の方々
事業内容	「友情のレポーター」記録ビデオ配布および帰国報告会の開催

<p>具体的な活動状況</p>	<p>2004年5月：「友情のレポーター」募集告知開始（新聞、雑誌、HP等）。 7月24日～8月2日：ラオスの首都ビエンチャンと世界遺産の町ルアン・パバーンにて家計を助けるために働く子どもや、貧しさゆえに家族と一緒に暮らせずお寺で修行をしている子どもなどを取材、ビデオで撮影。 9月12日：プロが編集したビデオレポートにスタジオで友情のレポーター本人たちによるナレーションを吹き込んで制作完了。 10月：ビデオのコピー、パッケージや同封資料の作成。 11月：ビデオ配布開始 新宿区内の公立小、中・高校、図書館などを含む計54カ所、およびマスコミ関係者・機関に無料配布した他、全国の支援者や教育機関への無料貸し出しを開始。</p> <p>2005年3月～ラオス取材報告会の告知（新聞、ニュースレター、HP等）。 2005年4月2日（土）14時～15時：東京・青山にある書店クレヨンハウス（港区北青山 3-8-15）店内にてラオス取材報告会の実施。（翌日は歴代レポーターによるカンボジア再訪報告も行われた。）</p>
<p>事業の成果</p>	<p>本事業の目的は、国際協力への関心が高まりつつある中、国境なき子どもたちのビデオ教材や現地報告が、日本の子どもたちが等身大で開発途上国とその現状に興味・関心を抱く契機となり、また彼らの理解が促進されることであった。</p> <p>今回の「友情のレポーター」のビデオレポート作成、及び小・中学校や図書館への無料配布は、新宿区内の青少年や一般の方々にアジアの現状を知ってもらおう大変貴重な機会となった。（配布先一覧：別紙1／送付内容：別紙2参照）</p> <p>KnKのニュースレターやホームページ上でもビデオレポート無料貸出の案内をした結果、全国の学校や団体等の勉強会で活用されている。</p> <p>また、東京・青山にある書店クレヨンハウスのご協力で2005年4月2日（土）に実施した2004年夏休みの友情のレポーターによるラオス取材報告、そして翌日4月3日（日）の歴代レポーターによるカンボジア再訪報告の会場には朝日新聞での告知やKnKのニュースレターでの案内を通じて100名を越える方が話を聞きに来てくれた。（報告会当日の様子：別紙3参照）</p>

特定非営利活動法人国境なき子どもたち

2 助成対象事業費内訳（実績）

収入	経費	積算根拠(内訳)		金額
	団体負担金			
参加費・資料代				0 円
その他の収入				0 円
協働推進基金助成		助成額 200,000 円		
計		1,550,184 円		
支出	費目	予算額	内訳	
	会議費	5,000 円	配布用資料コピー代 100 円 x50 部	5,000 円
助成の対象となる事業費の内訳	宣伝費	168,753 円	切手（募集要項送付） 90 円×100 ニュースレターNo.13 制作送付	9,000 円 ① 159,753 円
	リース費	278,344 円	ビデオ編集スペース 2 週間 ビデオ編集スタジオ 1 日間	② 182,731 円 ② 95,613 円
助成の対象となる事業費の内訳	謝礼	270,000 円	ビデオカメラマン同行撮影謝礼 10,000 円×10 日 編集制作謝礼 10,000 円×14 日 音楽制作謝礼	② 100,000 円 ② 140,000 円 ② 30,000 円
	材料費	50,469 円	配布用 VHS ビデオテープ(コピー代含) 290 円×60 本+税 CD-R150 円 x 60 枚 収録用ミニ DV テープ 4,750 円 x 2 箱 (10本入り) +税 報告会会場展示物作成費	③ 18,270 円 9,450 円 9,750 円 ④ 12,999 円
助成の対象となる事業費の内訳	交通費	704,416 円	航空運賃 成田-タイ・バンコク 121,000 円 x5 名 現地交通費 バンコク-ラオス 5 名 36,736 円 (内訳: 83 ドル+5476 バーツ+85 万キップ) 電車 都内 - 成田空港 5 名 報告会新旧レポーター国内交通費 19,430 円×1 名 (浜松⇄東京) 3000 円×3 名	⑤ 605,000 円 ⑥-1 36,736 円 ⑦ 34,250 円 ⑧ 19,430 円 9,000 円
	その他諸経費	21,960 円	切手（結果通知他） 90 円×100 枚 ビデオ送付代 ¥240×44(学校) ¥240×10(図書館、センター)	9,000 円 ⑨ 10,560 円 2,400 円
助成事業費(小計)		1,498,942 円		
助成対象外事業費		51,242 円	派遣現地滞在費 5 名×5 日 (内訳: 337 ドル+85 バーツ) バンコク宿泊費 5 名×1 日 13,200 円	⑥-2 38,042 円 ⑩ 13,200 円
事業総額			1,550,184 円	

領収書 No. ①～⑩：別途添付あり

3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
事業を計画した当初に決めた課題について、どこまで達成できたか。	2004年12月26日に起きたスマトラ島沖地震・インド洋大津波の影響で、スタッフがその対応に追われ報告会の実施日程が遅れたが、それ以外のビデオレポートの制作及び無料配布、そして友情のレポーターによる報告会の開催そのものは達成できた。また上記達成により青少年を始めとする日本の人々の開発途上で暮らす子どもたちに対する理解が促進された。
新たに気づいた課題は何か。	ビデオレポートの配布先から視聴後の感想等、確実にフィードバックしてもらえるシステムを整えておくべきであった。ビデオ配布後の小・中学校と KnK との関わり方を模索しつつ今後の課題としたい。
理解者や支援者が広がったか。	「友情のレポーター」の募集告知に始まる一連の広報活動により、事務局への問合せ件数は確実に増え、新規支援者の獲得へとつながった。また、ビデオレポートの貸出件数も順調に伸びている。レポーターによる取材報告会の来場者もそのほとんどの方が KnK のニューズレター読者登録を希望され、活動に対する理解を示してくれた。
事務局の執行体制は十分だったか。	突発的な災害により事業を進行する人手が圧倒的に不足し、課題の達成に時間がかかった。このようなことがないようにボランティアによる協力体制を確立させる。
その他	今回、新宿区の協働推進基金 NPO 活動資金助成をいただけたことにより、団体としての信用が高まったのみならず、「広報しんじゅく」第 1761 号に掲載された助成団体決定のお知らせにより、問合せ件数やホームページアクセス数の増加など新宿区内での認知度が上がり大変感謝している。

4 活動の成果

本事業の第一の目的は、既にかいたように開発途上国で暮らす子ども・青少年の現状に対する理解の促進であった。今回の活動を通じ、KnKの支援者、ビデオレポートの無料配布先のみならず、一般の方々に活動を知っていただく大変貴重な機会となった。2004年5月に開始した「友情のレポーター」の募集告知に始まる一連の広報の結果は以下のとおりである。

<新聞・雑誌>

- | | | |
|---------------------|-----------|----------------------|
| 1) 2004年5月21日～6月28日 | | |
| 毎日新聞 | その他全国10紙 | 2004年夏休み友情のレポーター募集告知 |
| 2) 2004年7月24日 | 静岡新聞 | 2004年夏休み友情のレポーター・横原泉 |
| 3) 2004年7月24日 | 中日新聞 | 2004年夏休み友情のレポーター・横原泉 |
| 4) 2004年8月26日 | 静岡新聞(別紙4) | 2004年夏休み友情のレポーター・横原泉 |
| 5) 2005年3月19日 | 朝日新聞(別紙4) | 国境なき子どもたち展示会、報告会告知 |
| 6) 2005年4月号 | 月刊クーヨン | 国境なき子どもたち展示会、報告会告知 |
| 7) 2005年5月号 | 月刊クーヨン | 友情のレポーター報告会 |

<インターネット>

NHKボランティアサイト、毎日新聞ユニバーサロン、Yahoo!ボランティアサイト、内閣府国民生活局ボランティアウェブ、ぼらんねっと、ボラ市民web、NPO/NGO Walker その他10サイト

<KnKホームページ>

2004年5月13日～ 2004年夏休みの友情のレポーター募集スタート

2004年11月16日～ 友情のレポータービデオレポートの貸出開始

2005年3月10日～ 友情のレポーターによる報告会の告知

<KnK ニュースレター>

第11号(2004年9月発行・部数2,000) 友情のレポーター ラオス取材レポート一部掲載
ビデオレポートのご案内

第13号(2005年3月発行・部数2,300) 友情のレポーター 報告会の告知

2005年4月2日に実施した友情のレポーターによるラオス取材報告、そして翌日4月3日(日)の歴代レポーターによるカンボジア再訪報告には当初予想していた人数を上回る参加者を得て、大変嬉しく思っている。朝日新聞等による告知のタイミングも良かったと思う。会場には小学校低学年～大人まで幅広い年齢層の方が来てくれたが、中学・高校生である友情のレポーターによる現地報告は一般の方々に国際的な援助活動を身近なものとして印象付けることができた。

また、第二の目的として開発途上国で暮らす子どもたちの置かれた現状に対する理解を深めながら、日本で暮らす小・中・高校生、大学生及び一般の方々それぞれがどのように支援に関わっていくことができるかの問題提起する機会の提供を心がけていたが、日本の青少年の目線で開発途上国の現状を報告することにより、大人だけでなく小・中学生や高校生、そして大学生など若い世代でも参加できる支援の可能性を具体的な形で示すことができた。

新宿区の助成で実施した今回の事業成果と今後の課題をふまえ、これからも現地での活動を続けるとともに新宿区内の小・中学校を始め、全国の一般の方々に対する国際理解の促進、啓発を行っていきたい。

2004 年夏休みの友情のレポーター
ビデオレポート配布先リスト

	小学校
1	新宿区立愛日小学校
2	新宿区立市谷小学校
3	新宿区立牛込仲之小学校
4	新宿区立江戸川小学校
5	新宿区立大久保小学校
6	新宿区立落合第一小学校
7	新宿区立落合第二小学校
8	新宿区立落合第三小学校
9	新宿区立落合第四小学校
10	新宿区立落合第五小学校
11	新宿区立落合第六小学校
12	新宿区立柏木小学校
13	新宿区立富久小学校
14	新宿区立鶴巻小学校
15	新宿区立津久戸小学校
16	新宿区立天神小学校
17	新宿区立戸塚第一小学校
18	新宿区立戸塚第二小学校
19	新宿区立戸塚第三小学校
20	新宿区立戸山小学校
21	新宿区立東戸山小学校
22	新宿区立西戸山小学校
23	新宿区立西新宿小学校
24	新宿区立花園小学校
25	新宿区立四谷第三小学校
26	新宿区立四谷第四小学校
27	新宿区立四谷第六小学校
28	新宿区立余丁町小学校
29	新宿区立淀橋第四小学校
30	新宿区立早稲田小学校

	中学校
1	新宿区立牛込第一中学校
2	新宿区立牛込第二中学校
3	新宿区立牛込第三中学校
4	新宿区立大久保中学校
5	新宿区立落合中学校
6	新宿区立落合第二中学校
7	新宿区立戸塚第一中学校
8	新宿区立戸山中学校
9	新宿区立東戸山中学校
10	新宿区立西戸山中学校
11	新宿区立西戸山第二中学校
12	新宿区立四谷中学校
13	新宿区立西新宿中学校
14	新宿区立新宿養護学校
	区立図書館
1	新宿区立中央図書館
2	新宿区立四谷図書館
	区内地域センター
1	四谷地域センター
2	牛込筆筈地域センター
3	榎町地域センター
4	若松地域センター
5	大久保地域センター
6	落合第一地域センター
7	柏木地域センター
8	角筈地域センター

計 55 力所



特定非営利活動法人 国境なき子どもたち

〒162-0056 東京都新宿区若松町 33-6

菱和バレス若松町 11 階

TEL : 03-5155-2506 FAX : 03-5155-2507

メールアドレス kodomo@knk.or.jp

ホームページ <http://www.knk.or.jp>

＜ビデオ資料による国際理解のご案内＞

前略 平素より私ども特定非営利活動法人国境なき子どもたち（KnK）の活動にご理解を賜りまして誠にありがとうございます。本日は、貴校児童・生徒の皆さまの国際理解を、ビデオ資料を通じて深めていただければと考えお便り差し上げております。

私ども特定非営利活動法人国境なき子どもたちの前身は、1999年にノーベル平和賞を受賞した国際的民間医療援助団体、国境なき医師団（MSF）日本の青少年向け教育プロジェクト『子どもレポーター』です。日本の青少年に、同じ時代に生まれながらまったく異なる状況にある途上国の同世代の実情に目を向けてもらうことを目的としたこの『子どもレポーター』が発展して1997年に弊団体が設立されました。以来、『共に成長するために』という理念のもと、日本の青少年に向けた教育・啓発活動と、カンボジア、ベトナム、フィリピンの恵まれない青少年に対する教育支援を両輪とした活動を行っております。

この度、本状の裏面にもございます通り、弊団体の活動に対し新宿区より平成16年度の共同推進基金 NPO 活動資金助成が決定致しました。この助成により、新宿区内の公立小・中学校および図書館、地域センターの各所へ同封のビデオ資料を無料配布、謹呈することが可能となりました。

全世界で初等教育の就学年齢にありながら学校に通っていない子どもは一億人以上にも上るといわれています。この数字の大半が示すのは、不登校や長期療養などではなく、学校に行く代わりにゴミの中から食べ物や換金可能な物を探しながら一日12時間働き続ける子や、生きるために体を売られることを余儀なくされる子ら、開発途上国の子どもの悲惨な現状なのです。同封のビデオ資料では、日本の中・高生2名がラオスに赴き、貧困ゆえにお寺の修行僧として生活している少年たちの取材したレポートをご紹介します。ぜひ貴校での総合的な学習の時間等でご活用いただき、児童・生徒の皆さんの国際理解の一助となれば幸いです。

草々

2004年11月26日

特定非営利活動法人 国境なき子どもたち

会長 小川道幸

担当 松浦 ちはる

TEL 03-5155-2506 FAX 03-5155-2507

E-mail kodomo@knk.or.jp

URL www.knk.or.jp

クレヨンハウス店内にて写真パネルの展示



2004年夏休みの友情のレポーター ラオス取材



歴代レポーター 2004年夏のカンボジア再訪

2005年4月2日(土) 14:00~15:00 クレヨンハウス
2004年夏休みの友情のレポーター ラオス取材報告
香山和志くん(東京・16)、横原泉さん(静岡・14)



2005年4月3日(土) 14:00~15:00 クレヨンハウス
歴代レポーター 2004年夏休みのカンボジア再訪報告
三宅浩之くん(愛知・17)、五十嵐敬也くん(千葉・14)

